

## 1. 保育者への道のり

明德での2年間の生活をどのように過ごすかは、みなさんの将来に大きくかわります。一人ひとりが目的に向かって自らを律し、学びを創りあげていくのです。日々の生活・授業は、4月の教務ガイダンスを受講し、各自が「履修要項」に基づいて諸手続きをしていくことによって組み立てていきます。

### 1. 学びのステージ

本学では4月から9月までを「前期」、10月から3月までを「後期」とし、1年を2期に分けて構成しています。従って、2年間で4期にわたって学習を進めていきます。保育創造学科の教育理念に基づいて「体験から学ぶ」をテーマに据えつつ、学びを重層的に積み重ねていく教育課程を編成しています。授業科目には、期毎に開講される「半期科目」（前期に開講される科目を「前期科目」、後期に開講される科目を「後期科目」といいます）と前期・後期を通して開講される「通年科目」があり（その他に一部、特定の期間に開講される「集中科目」があります）、それぞれに学習が評価され、単位が認定されます。それらは主要な学びのステージにおける皆さんの体験やそこからの学びと関連づけられ、確かな知識と実践力に結びつくよう配置されています。

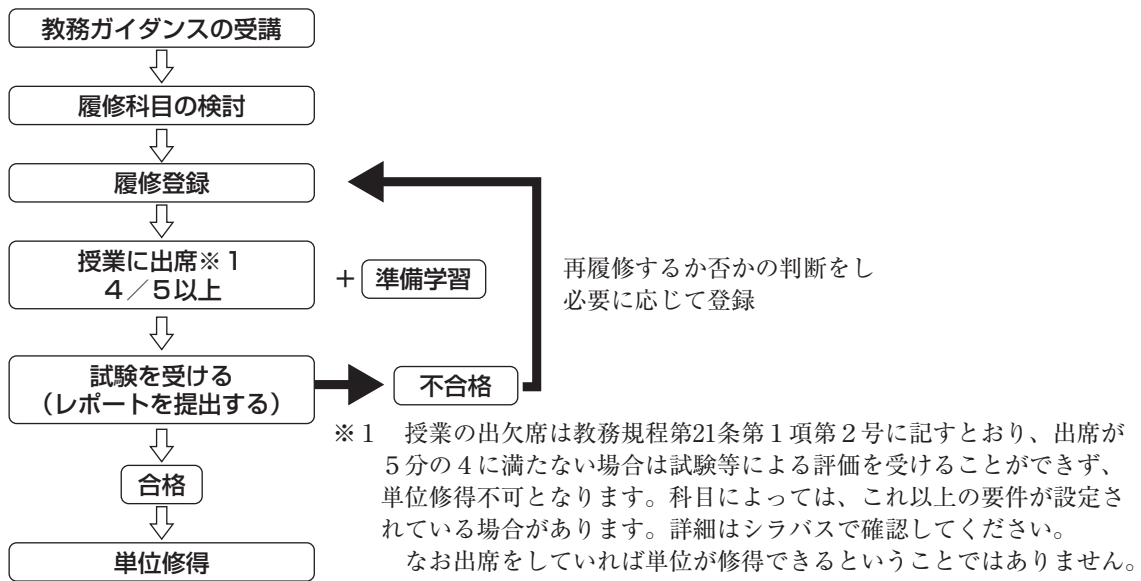
### 2. 短期大学士の「学位」授与

2年間の学びを修め卒業するためには、以下に示す流れの中で、必要な科目を履修し、単位を修得することが求められます。そして、必要な単位を修得すると卒業と同時に「短期大学士（保育）」の学位が授与されます。

「学位」とは、①学術の中心にある大学が与えるもので、②一定水準の教育を受け、知識・能力を持つと認められる者に与えられるものであり、③授与された学位は国際的にも通用するものです。

学位が授与されることに誇りをもち、各自の責任において、よりよい学びが展開されるよう、卒業に向けて「単位を修得する」という意識を強く持ち2年間の生活を組み立て、努力を重ねることが大切です。

■単位修得までの流れ



■短期大学での学修の考え方

学則第22条に規定するとおり、短期大学では「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容」で構成することになっていますが、本学での授業時間数は、いずれも1単位45時間という基準以下（学則第21条別表参照）になっています。それは、本学での学修が、予習・復習や課題学習といった自主的な学習の時間を必須のものとして含んでいるからです（準備学習については各授業のシラバスに明記されています）。本学での学修でより重要なことは、シラバスなどを手がかりに、自らの疑問や関心に従って、進んで学んでいく姿勢を持つことです。

## 2. 幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得にあたって

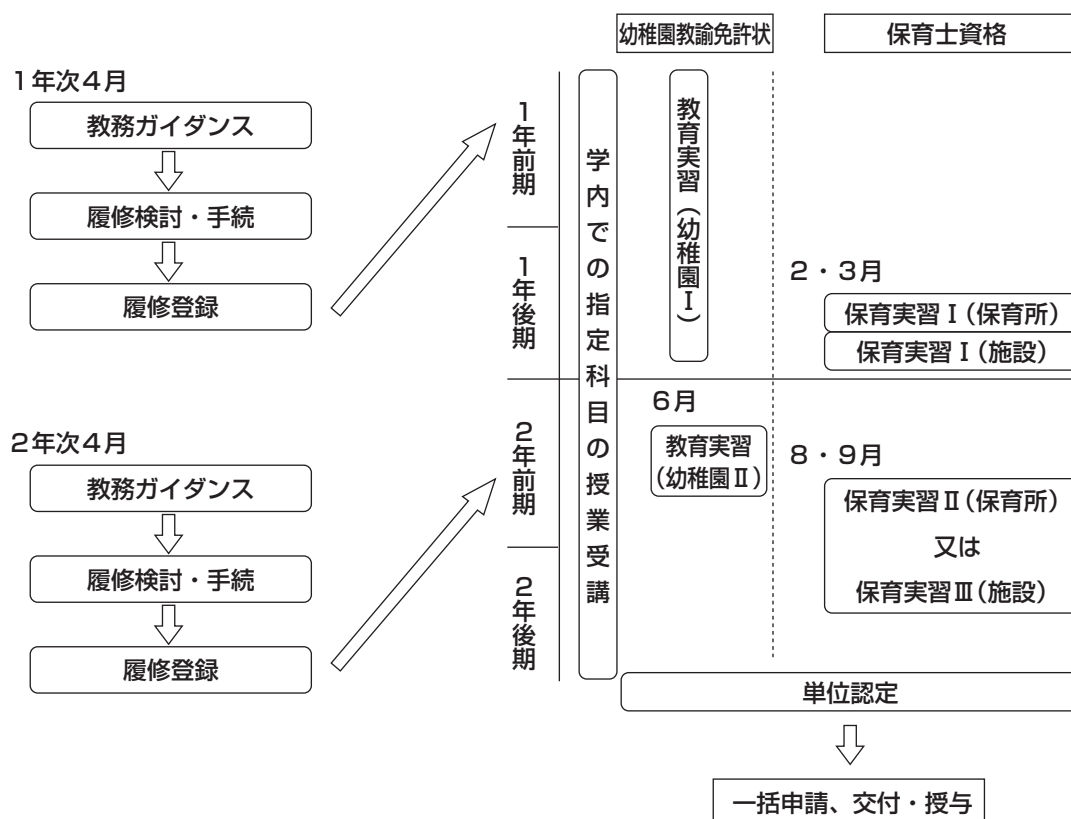
幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するには、卒業に必要な単位を修得するだけでなく、教育課程表に示された免許状・資格の取得に必要なすべての科目を履修し、単位を修得する必要があります。そして、必要な単位が修得できた場合には、学生本人の申出に基づき、学校から免許状・資格の一括申請を行います（※1）。その結果、申請が承認された者には、「幼稚園教諭二種免許状」が卒業式において授与され、また、国家資格である「保育士資格」については、後日（卒業年の6月頃）、「保育士証」が都道府県から郵送されることとなります（※2）。

免許状・資格は、在籍していれば自動的に付与されるものではなく、一人ひとりの学生の責任に基づく履修登録、科目の履修、単位の修得そして申請という主体的な行動によって、その取得が可能になります。また、学修不足や教諭・保育士としての適性に疑義を生じる状況がある場合には、履修が認められない場合がありますので注意してください。

※1 申請にあたっての手続き料は各自の自己負担になります。

※2 3月31日付けで保育士として都道府県に登録され、「保育士登録済通知書」が郵送されてきます。「保育士証」が発行されるまでは、これをもって保育士登録がなされたことを証明します。

### ■幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得までの流れ



### 3. 履修要項

#### (1) はじめに

本学での学修は自らの責任において単位を修得し、目標を達成することが大切です。そのためにも履修に関するルールを十分に理解してください。

##### ①卒業及び免許状・資格取得

本学に2年以上在学し、学則第21条別表に示す卒業必修科目及び単位を修得した者には、学則第30条第1項の規定により卒業が認められ、卒業者には同条第2項の規定により、「短期大学士（保育）」の学位が授与されます。さらには、学則第25条第2項及び第3項に定める所定の科目及び単位を修得した者は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格（※）が取得できます。本学学生は、学則第1条の趣旨に鑑み、1年次から幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に必要な科目を計画的に履修し、その取得を目指すものとします。

また、所定の科目及び単位を修得した者は社会福祉主事任用資格が取得できます。

※ 詳細は前項「幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得にあたって」に記載

##### ②開講期間

本学の授業科目の開講期間は、4月1日から9月30日までの「前期」、10月1日から3月31日までの「後期」、これらを通じた期間の「通年」、及び特定の期間に集中して授業を実施する「集中」に分類されます。

##### ③授業期間及び授業時間

本学の授業期間は、学則第6条に定める休業日を除く月曜日から金曜日の期間です。休業日であっても、実習や集中授業、特別授業、補講が行われる場合があるので、学事日程や掲示を確認してください。

また本学の授業時間は、1時限目から5時限目で、各時限の開講時間は次の通りです。

1時限目	9：20～10：50	4時限目	15：10～16：40
2時限目	11：00～12：30	5時限目	16：50～18：20
3時限目	13：30～15：00		

##### ④授業科目の区分

本学の授業科目は、その授業形態によって次の3種類に分類されます。

区 分	形 態
講 義	教員の話を中心にして学習を進める授業
演 習	学生の主体的な活動を教員が援助しながら学習を進める授業
実習・実技	学生の実体験を中心にして学習を進める授業

## ⑤授業科目の区分と単位数

学則第22条で、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることとされており、これに各授業科目の単位数を乗じるとその科目の必要な学修の時間数となります。この時間数は、学校での授業の時間数と学生が課外で行う準備学習の時間数との合計であり、1単位当たりの授業時間数は、以下を基準として、学則第21条別表に定められています。

講義・演習	15時間以上
実習・実技	30時間以上

また、授業時間の計算においては、1回90分の授業は2時間と見なすこととされています。

## ⑥出席要件

どの科目においても授業は全回出席するのが原則です。やむを得ない事情等で欠席する場合であっても、その出席が5分の4に満たない者は、教務規程第21条第1項2号により、試験等の評価を受けることができません。従って、単位修得のためには、全授業回数の5分の4以上の出席が絶対条件となります。科目によっては、より厳しい条件が設定されている場合があります。詳細はシラバスで確認してください。

また、遅刻・早退（※）は3回で欠席1回に換算されますから注意をしてください。

※遅刻・早退は30分以内に限られ、それ以上の場合には、原則として欠席になります。また、授業の一部が欠けると実質的に授業に参加できなくなる場合など、授業によっては一切遅刻・早退が認められない場合もあります。各授業での説明に注意をしてください。

## (2) 履修方法

## &lt;1年生&gt;

1年生の履修可能な科目は教育課程表（17～18ページ）の開講年次欄に1年と示された科目です。卒業必修科目、幼稚園教諭免許状必修科目、保育士資格必修科目、保育士資格選択科目などの区分に十分留意して、履修登録確認期間に配布する履修登録表をもって履修登録してください。（詳しくは(4)を参照）

科目によっては、グループ毎に又は学籍番号により、あらかじめ時間割が指定してあります。それらの科目については、原則として時間割表に指定された科目及び講義時間で履修してください。

また、「オーラル・コミュニケーションⅠ」は英語と中国語の選択科目です。「音楽表現演習Ⅰ」「音楽表現演習Ⅱ」はピアノとギターのコースがあります。それぞれの科目の説明にしたがい、選択の上、履修してください。

※1年次開講の科目を1年次に単位修得できなかった場合、時間割編成上、2年次にはその科目を履修できない場合もあります。1年次に単位を修得するよう心掛けてください。

## < 2 年生 >

2 年生の履修可能な科目は教育課程表（17～18ページ）に示された全ての科目です。ただし、1 年次で単位修得した科目の再履修は出来ません。卒業必修科目、幼稚園教諭免許状必修科目、保育士資格必修科目、保育士資格選択科目などの区分に十分留意して、履修登録確認期間に配布する履修登録表をもって履修登録してください（選択にあたっての考え方については、(4)を参照）。

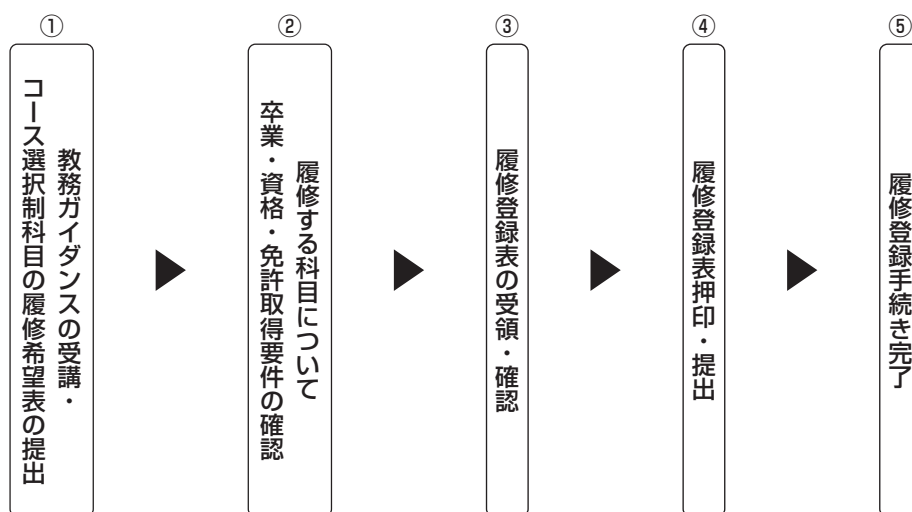
科目によっては、グループ毎又は学籍番号により、あらかじめ時間割が指定してあります。それらの科目については、原則として時間割表に指定された科目及び講義時間で履修してください。

また、2 年次では、いくつかの選択科目及びコース制の科目を用意しています。それぞれの科目の説明にしたがい、シラバスを熟読の上、各自の関心、目的意識に応じて選択し、履修してください。シラバスに示される科目ごとの定員は一応の目安です。科目により若干の変動の可能性があるので、ガイダンスでの説明に注意してください。

### (3) 履修登録

#### 1) 登録の流れ

履修登録の大まかな流れは、下の図のとおりとなります。



#### ①教務ガイダンスの受講・コース選択制科目の履修希望表の提出

履修手続きや選択科目を中心とした科目の説明を行います。不明な点は質問してください。ガイダンスに欠席した場合、希望の授業が履修できなくなる場合があります。

コース選択制の科目については、教務ガイダンス後、調整・決定後、随時結果を発表します。履修登録表の受領・確認はこの決定にしたがって行ってください。

②履修する科目について卒業・資格・免許取得要件の確認

「教育課程表」、「時間割表」を参考にして、自分が履修した授業で単位修得することにより、卒業・資格・免許取得要件を満たすことができるかを確認してください。

③履修登録表の受領・確認

掲示板で指定した期日に履修登録表を受領し、履修登録確認期間に確認を行ってください。

誤った記入がされていた場合は、必ず履修登録確認期間に修正を行ってください。指定期間外での修正はできませんので注意してください。

④履修登録表押印（自署（フルネーム）でも可）・提出

履修登録表は、各自が事務室の所定の場所に提出してください。修正がある場合には朱書き（赤色ボールペン）にて修正し、押印をせずに、事務室教務グループに直接提出してください。修正した履修登録表を交付します。押印された履修登録表に不明な点がある場合には、再確認・再提出となることがあります。掲示等により呼び出しますので、指示に従って迅速に対応してください。

履修登録確認期間に提出できなかった場合、押印又は自署（フルネーム）がない場合は履修登録が無効となり、授業に出席しても単位を修得できませんので、十分注意をしてください。

提出期限	1年次開講科目・再履修科目	4月17日（金）
	2年次開講科目	5月11日（月）

⑤履修登録手続き完了

誤りのない履修登録表に押印して提出した時点で履修登録は完了となります。なお、履修登録に関して質問、相談がある場合には、教務担当教員または事務室教務グループに相談してください。

※後期履修修正期間

履修登録手続き完了後、後期から開始する科目の履修登録を取り下げたい場合は、以下の期間に事務室で所定の手続きを行ってください。なお、後期に履修登録科目を追加することはできません。

後期履修修正期間 10月5日（月）～7日（水）

#### (4) 履修科目の決定の仕方

基本的には「教育課程表」と「時間割表」をもとに、各自で履修科目を検討し決定していきますが、原則として「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」の両方を取得した上での卒業を目指しますので、その場合の履修科目の決定の仕方について、以下に説明をします。

##### < 1 年生 >

###### ① 1 年次開講の卒業必修科目の確認

卒業必修科目（次ページの表では「卒必」と表示されています）は、卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目です。これらの科目の単位修得をしていないと、必要単位数以上修得していても卒業は認められませんので必ず履修してください。

###### ② 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得必修科目の確認

幼稚園教諭免許状取得必修科目（次ページの表では「幼必」と表示されています）、保育士資格取得必修科目（次ページの表では「保必」と表示されています）は、それぞれ幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得するために必ず単位を修得しなければならない科目ですから、これらの科目も必ず履修してください。

###### ■ オーラル・コミュニケーション I の履修

「オーラル・コミュニケーション I」は、2 年次開講の「オーラル・コミュニケーション II」と共に幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための選択必修科目（2 単位以上修得）です。2 年次に「オーラル・コミュニケーション II」で 2 単位を修得することも可能ですが、その場合、単位修得ができないと、その年度に免許状・資格の取得ができなくなります。1 年次に「オーラル・コミュニケーション I」を履修するようにしてください。

###### ③ 幼稚園教諭免許状取得選択必修科目の確認

1 年次開講の幼稚園教諭免許状取得選択必修科目は、「音楽表現演習 I」「音楽表現演習 II」です。2 年次開講の同選択必修科目は「あそび実践演習」、「音楽表現演習 III」、「音楽表現演習 IV」です。これらの科目は選択必修科目ではありますが、保育の現場において必要となる技能を身につける科目であり、特にピアノは就職試験に多く取り入れられます。全ての科目を履修するようにしてください。



## 教養基礎科目

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必
日本国憲法	2		○	
メディア・コミュニケーション	2		○	○
体育（理論）	1		○	○
体育（実技）	1		○	○
教養基礎演習	1	○		
教養総合演習	1	○		
キャリアデザインⅠ	1	○		

## 専門科目

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必
教育原論（教育に関する社会的、制度的事項を含む）	2		○	○
保育原論	2	○		○
発達心理学（講義） ※1	2		○	○
発達心理学（演習） ※2	1		○	○
こども家庭支援の心理学	2			○
カリキュラム論	2		○	○
乳児保育Ⅰ	2			○
乳児保育Ⅱ	1			○
特別支援保育Ⅰ ※3	1		○	○
こどもの保健（講義） ※4	2			○
保育内容演習（言葉と表現）	2		○	○
保育内容演習（健康と人間関係）	2		○	○
保育内容演習（環境）	1		○	○
保育者論Ⅰ ※5	1		○	○
教育実習（実習指導）	1		○	
教育実習（幼稚園Ⅰ） ※6	1		○	
保育実習指導Ⅰ ※7	2			○
保育実習Ⅰ（保育所） ※7	2			○
保育実習Ⅰ（施設） ※7	2			○
あそび基礎演習Ⅰ	2		○	○
あそび基礎演習Ⅱ	2		○	○
こどもと文化Ⅰ	1			○
こどもと文化Ⅱ	1			○
社会福祉	2			○
こども家庭福祉	2			○
社会的養護Ⅰ	2			○

- ※1 単位が修得出来ない場合「発達心理学（演習）」を履修することができません。  
 ※2 「発達心理学（講義）」の単位を修得しなければ履修することはできません。  
 ※3 単位が修得出来ない場合2年次に「特別支援保育Ⅱ」を履修することができません。  
 ※4 単位が修得出来ない場合2年次に「こどもの健康と安全」を履修することができません。  
 ※5 単位が修得出来ない場合2年次に「保育者論Ⅱ」を履修することができません。  
 ※6 単位が修得出来ない場合2年次に「教育実習（幼稚園Ⅱ）」を履修することができません。  
 ※7 単位が修得出来ない場合2年次に保育実習指導Ⅱ及びⅢ、保育実習Ⅱ及びⅢを履修することができません。

## ④その他の留意事項

- ・科目の履修時限：時間割表に学籍番号をもって授業の曜日、時限を指定されている科目については、同一科目が他の曜日、時限に開設されていても、指定された時限以外での受講は認められません。指定された曜日、時限で履修してください。
- ・「メディア・コミュニケーション」：特別なスケジュールで授業が行われます。授業中に配布される日程表及び学事日程を確認の上、受講してください。
- ・「オーラル・コミュニケーションⅠ」：英語と中国語の選択が可能です。希望に沿えない場合があります。また、授業時間は指定されます。
- ・「音楽表現演習Ⅰ」・「音楽表現演習Ⅱ」：複数のコースから1つを選択します。授業時間と担当教員は指定されます。
- ・「キャリアデザイン基礎」：必修科目ではありませんが、社会人として必要なルールやマナーについて考え、自己理解を深める授業です。積極的に履修をしてください。

## &lt;2年生&gt;

## ①1年次での単位修得科目の確認

はじめに、1年次で単位を修得できた科目について確認をしておいてください。

なお、修得できなかった科目があり、卒業ならびに免許状・資格の両方の取得を希望される方は、再履修が必要になります。その場合は履修相談を受けた上、履修登録をしてください。不明な点があれば、教務担当教員または事務室教務グループに問い合わせてください。

## ②2年次開講の卒業必修科目の履修

2年次開講科目のうち、卒業必修科目は「現代社会論」「キャリアデザインⅡ」「専門総合演習」「卒業演習」です。これらの科目は必ず履修してください。

## ■現代社会論の履修

この科目は<総論>と<各論>の2つから構成されています。履修登録にあたっては<各論>を1つ選択してください（コース選択は、<総論>の中で行います）。

今年度の各論は以下の7コースが通年で開設されます。

テーマ	担当
芸術を教育・福祉へ	明石
現代社会の中の犯罪—同じ社会に生きる者として	金子
短大生のワイドショー	佐藤
現代社会における子ども、家庭の支援	柴田
(前期)多様な背景をもつ外国人/(後期)多様な現実を生きる外国人	鶴田
「まちあるき」から社会を考える	鷺野
現代社会と関係する方法	渡辺

■ 専門総合演習、卒業演習の履修

「専門総合演習」が前期に、「卒業演習」が後期に、それぞれ14コース開設されます。

履修登録にあたっては、「専門総合演習」と「卒業演習」が同一の教員になるように選択してください。

《前期：専門総合演習》

テーマ	担当
子どもと芸術Ⅰ	明石
「うたとおはなしのひろば」を通して考える保育教材と自己表現	池谷
遊びと保育者のかかわりについて考えるⅠ	泉澤
子ども理解と保育者の援助	伊藤
子どもの表現と表現する自分	大澤
他者理解を試みる～様々な当事者に出会う～	大村
個人を尊重する人間関係を探るⅠ	金子
病気・障害のある子どもの発達について考えるⅠ	久保
遊びの展開を捉え共有するⅠ	古賀
保育原理実践演習	小久保
家族理解のためのアセスメント 基本編	佐藤
からだを学ぶ	田中
外国にルーツをもつ子どもⅠ	鶴田
遊びと環境について考えるⅠ	由田

《後期：卒業演習》

テーマ	担当
子どもと芸術Ⅱ	明石
様々な経験を通して考える私の自己表現と保育観	池谷
遊びと保育者のかかわりについて考えるⅡ	泉澤
保育者の社会的役割と保育者となる“私”の在りようを考える	伊藤
表現する自分を探究する	大澤
他者理解を試みる～当事者とかかわる・当事者になる～	大村
個人を尊重する人間関係を探るⅡ	金子
病気・障害のある子どもの発達について考えるⅡ	久保
あそびの展開を捉え共有するⅡ	古賀
カリキュラム論実践演習	小久保
家族理解のためのアセスメント 応用編	佐藤
からだから学ぶ：関わる、動く、創る	田中
外国にルーツをもつ子どもⅡ	鶴田
遊びと環境について考えるⅡ	由田

## ③幼稚園教諭免許状・保育士資格取得必修科目の履修

幼稚園教諭免許状ならびに保育士資格の2つを取得する場合には、以下の科目を履修する必要があります。

開講期	科目名	担当教員
前期	保育内容総論	泉澤
前期	こどもの健康と安全 ※1	有馬
前期	特別支援保育Ⅱ ※2	大村
前期	こどもの食と栄養Ⅰ	島本
後期	こどもの食と栄養Ⅱ	島本
後期	子育て支援	高橋
前期	保育方法論Ⅰ	伊藤・由田
後期	保育方法論Ⅱ	由田
後期	保育者論Ⅱ ※3	由田
後期	こども臨床学	大村
後期	保育・教職実践演習（幼稚園）	泉澤・大澤・由田
前期	あそび技能演習	阿部・池谷・山田
後期	社会的養護Ⅱ	砥上
前期	こども家庭支援論	佐藤

※1 「こどもの保健（講義）」の単位を修得していなければ履修できません。

※2 「特別支援保育Ⅰ」の単位を修得していなければ履修できません。

※3 「保育者論Ⅰ」の単位を修得していなければ履修できません。

## ■実習関連科目の履修

取得を希望する免許状・資格にあわせて、それぞれ必要な実習関連科目を履修する必要があります。

免許状/資格	科目名	担当教員
幼稚園教諭免許状	教育実習（実習指導）	泉澤・小久保・由田
	教育実習（幼稚園Ⅱ） ※4	
保育士資格	保育実習指導Ⅱ・保育実習Ⅱ ※5	伊藤・大村・古賀
	保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ ※5	佐藤・砥上

※4 「教育実習（幼稚園Ⅰ）」の単位を修得していなければ履修できません。

※5 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得していなければ履修できません。

## ④選択科目の履修

以上の諸科目を履修し、単位を修得することができれば、卒業要件を満たし、かつ幼稚園教諭免許状と保育士資格を取得することができます。

しかし本学では、社会人としての素養や保育者としての資質を高め、視野を広げるために、以下の選択科目を開講しています。意義ある学修体験の機会として、できる限り履修し、大いに活用してください。

## ■教養基礎科目：フィールドワーク（わくわく体験研修）の履修

今年度は9コース開設されます。体験研修旅行の期間は、基本的に9月中旬となっておりますが、この他に通常授業期間を利用しての事前準備ならびに事後学習が随時組み込まれます。

科目名	テーマ	担当
フィールドワーク (人間と文化)	スペインの文化に触れて	明石・田中
	昔話が息づく町・遠野	泉澤
	ドキュメンタリー映画を味わう	大村
	ナイトウォーク in Chiba	古賀・鶴田
フィールドワーク (生活と社会)	カンボジアの子どもたちの暮らし	伊藤
	東北スタディツアー	金子
	生活と文化を考える～富山県利賀村研修	由田
フィールドワーク (自然と環境)	Sense of Wonder in Nepal	鶴田
	プレーパークへいこう～子どもが遊び、人が繋がる場	由田

※なお、上記のうち同一科目の複数コースを履修することはできません。また、複数科目を履修する際は各コースの事前ガイダンスにおいて、日程の重複が無いことを確認してください。

※体験研修旅行は授業であり、旅行業者が提供するパック旅行ではありません。したがって、参加者には、現地では当然のことながら事前準備の段階から、受け身の姿勢ではなく主体的かつ積極的な姿勢で臨むことを求めます。また、現地では集団行動となりますので、他の参加者と協力する姿勢を持つことも必要です。

### ■教養基礎科目の履修

教養基礎科目については、上記フィールドワーク（わくわく体験研修）の他、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「キャリアデザインⅢ」が開講されています。1年次の学びをふまえ、より深い素養を培う機会となるでしょう。

### ■表現技術系科目の履修

専門科目のうち、下記の表にある「あそび実践演習（こどもと音楽）」「あそび実践演習（こどもと造形）」「あそび実践演習（こどもと運動）」「あそび実践演習（こどもと自然）」ならびに「音楽表現演習Ⅲ・Ⅳ」は幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための選択科目となっています。なお、今年度は「あそび実践演習（こどもと言葉）」は開講しません。

開講期	科目名	担当
後期	あそび実践演習（こどもと音楽）	阿部
後期	あそび実践演習（こどもと造形）	久保寺
後期	あそび実践演習（こどもと運動）	田中
後期	あそび実践演習（こどもと自然）	古賀
前期	音楽表現演習Ⅲ	明石・大澤・木村・曾我・福中・松井
後期	音楽表現演習Ⅳ	明石・阿部・大澤・福中

## 4. 教育課程

入学年度の教育課程が卒業まで適用されます。

表1 必要単位数

	卒業	幼免取得	保育士取得	幼免・保育士取得
卒業必修	14	14	14	14
選択科目	48 表2・表3より	43 (幼必)  5 表2・表3より	66 (保必) ※保育原論の単位数は卒業必修に含まれています。	66 (保必) ※保育原論の単位数は卒業必修に含まれています。  7 (幼必)
計	62	62	80	87

※「卒業」は卒業資格を取得するための最低単位数です。

※「幼免取得」は幼稚園教諭二種免許状のみを取得する場合、「保育士取得」は保育士資格のみを取得する場合の最低単位数です。

※「幼免・保育士取得」は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格をあわせて取得する場合の最低単位数です。なお、両者に重複する場合は「保必」にカウントしています。

表2 教育課程表（教養基礎科目）

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必	保選	区分	開講年次
①基礎科目系							
日本国憲法	2		○		○	講義	1年
メディア・コミュニケーション	2		○	○		講義	1年
オーラル・コミュニケーションⅠ	2		選択必修 2単位以上	選択必修 2単位以上		演習	1年
オーラル・コミュニケーションⅡ	2					演習	2年
体育（理論）	1		○	○		講義	1年
体育（実技）	1		○	○		実技	1年
小 計	10	0	8	6	2		
②教養総合科目系							
教養基礎演習	1	○				演習	1年
教養総合演習	1	○				演習	1年
フィールドワーク（人間と文化）	2				○	演習	2年
フィールドワーク（生活と社会）	2				○	演習	2年
フィールドワーク（自然と環境）	2				○	演習	2年
現代社会論	4	○				演習	2年
キャリアデザイン基礎	1				○	講義	1年
キャリアデザインⅠ	1	○				講義	1年
キャリアデザインⅡ	1	○				講義	2年
キャリアデザインⅢ	1				○	講義	2年
小 計	16	8	0	0	8		
教養基礎科目計	26	8	8	6	10		

表3 教育課程表（専門科目）

授業科目	単位数	卒必	幼必	保必	保選	区分	開講年次
<b>①教育・保育／理論系</b>							
教育原論（教育に関する社会的、制度的事項を含む）	2		○	○		講義	1年
保育原論	2	○		○		講義	1年
発達心理学（講義）	2		○	○		講義	1年
発達心理学（演習）	1		○	○		演習	1年
こども家庭支援の心理学	2			○		講義	1年
カリキュラム論	2		○	○		講義	1年
保育内容総論	1		○	○		演習	2年
こどもの健康と安全	1			○		演習	2年
乳児保育Ⅰ	2			○		講義	1年
乳児保育Ⅱ	1			○		演習	1年
特別支援保育Ⅰ	1		○	○		演習	1年
特別支援保育Ⅱ	1			○		演習	2年
こどもの保健（講義）	2			○		講義	1年
こどもの食と栄養Ⅰ	1			○		演習	2年
こどもの食と栄養Ⅱ	1			○		演習	2年
子育て支援	1			○		演習	2年
小計	23	2	9	23	0		
<b>②教育・保育／実践系</b>							
保育内容演習（言葉と表現）	2		○	○		演習	1年
保育内容演習（健康と人間関係）	2		○	○		演習	1年
保育内容演習（環境）	1		○	○		演習	1年
保育方法論Ⅰ	1		○	○		講義	2年
保育方法論Ⅱ	1		○	○		講義	2年
保育者論Ⅰ	1		○	○		講義	1年
保育者論Ⅱ	1		○	○		講義	2年
こども臨床学	2		○	○		講義	2年
保育・教職実践演習（幼稚園）	2		○	○		演習	2年
小計	13	0	13	13	0		
<b>③教育・保育／実習系</b>							
教育実習（実習指導）	1		○			演習	1・2年
教育実習（幼稚園Ⅰ）	1		○			実習	1年
教育実習（幼稚園Ⅱ）	3		○			実習	2年
保育実習指導Ⅰ	2			○		演習	1年
保育実習Ⅰ（保育所）	2			○		実習	1年
保育実習Ⅰ（施設）	2			○		実習	1年
保育実習指導Ⅱ	1				選択必修	演習	2年
保育実習指導Ⅲ	1				1単位以上	演習	2年
保育実習Ⅱ	2				選択必修	実習	2年
保育実習Ⅲ	2				2単位以上	実習	2年
小計	17	0	5	9	0		
<b>④表現技術系</b>							
あそび基礎演習Ⅰ	2		○	○		演習	1年
あそび基礎演習Ⅱ	2		○	○		演習	1年
あそび技能演習	2		○	○		演習	2年
あそび実践演習（こどもと音楽）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（こどもと造形）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（こどもと運動）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（こどもと言葉）	1				○	演習	2年
あそび実践演習（こどもと自然）	1				○	演習	2年
こどもと文化Ⅰ	1				○	演習	1年
こどもと文化Ⅱ	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅰ	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅱ	1				○	演習	1年
音楽表現演習Ⅲ	1				○	演習	2年
音楽表現演習Ⅳ	1				○	演習	2年
小計	17	0	8	8	9		
<b>⑤福祉系</b>							
社会福祉	2			○		講義	1年
こども家庭福祉	2			○		講義	1年
社会的養護Ⅰ	2			○		講義	1年
社会的養護Ⅱ	1			○		演習	2年
こども家庭支援論	2			○		講義	2年
小計	9	0	0	9	0		
<b>⑥専門総合科目系</b>							
専門総合演習	2	○				演習	2年
卒業演習	2	○				演習	2年
小計	4	4	0	0	0		
専門科目計	83	6	35	62	9		
合計	109	14	43	68	19		

※ 保育実習Ⅱを履修する場合保育実習指導Ⅱを、保育実習Ⅲを履修する場合保育実習指導Ⅲを履修すること。



## シラバスの記載内容について

ナンバリング	※1	科目名	科目名が記載されています		担当教員	担当教員名が記載されています	
ディプロマポリシーとの関連性	※2	担当形態	※3				
テキスト	授業で使用する教科書が記載されています			単位数 授業形態	単位数、授業形態 (講義・演習・実技・実習) が記載されています	開講時期	開講時期 (前期・後期・ 通年)が記載 されています
<p><b>講義概要</b></p> <p>■到達目標 学生がこの授業を履修することで学習後に獲得することのできる（または到達できる）知識や技能等が記載されています</p> <p>■授業の概要 どのような授業を展開していくのか、授業担当者の視点から包括的に記載されています</p> <p>■授業計画 授業各回の内容が箇条書きで記載されています。 第1回 第2回 ・ ・ ・</p> <p>■準備学習 授業外での学習の指示であり、学生が必要な事前・事後学習を行うことを前提とし、授業内容に対応させたできるだけ具体的な指示が記載されています。</p> <p>■評価方法 「到達目標」に対する学習成果の達成度を適切に評価できる方法とし、どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのか、それらの割合も含めて記載されています。</p>							
参考文献	授業の事前・事後の学習などに役立つ書籍について記載されています			特記事項	授業に取り組む姿勢、必要な物品、学外学習の費用、定員等が記載されています		
卒業・免許状・資格との関連	当該科目が、卒業・幼稚園教諭免許・保育士に関して、「必修」「選択必修」「選択」のどれに当てはまるかが記載されています			幼 保	※4 ※5		
実務経験のある教員等による授業内容	実務経験のある教員として文部科学省に届出された教員については、ここに実務経験をどのように反映された授業を行うかが記載されています。						

- ※1 授業科目に適切な番号を付し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示しています。
- ※2 当該科目の学習内容が、下記の本学ディプロマポリシーにおいて、どの項目の達成に関連することとなるかが記載されています。
- ① 子どもを受容・理解し、その主体性を認め、子どもの成長にかかわる者として基礎的知識と技術を身に付けている。
  - ② 自らの行動の理解に努め、探求し続ける力（好奇心、関心、意欲、態度）を身に付けている。
  - ③ 社会を理解することに努め、社会とつながるための基本的な力を身に付けている。
  - ④ 他者を理解し、信頼関係を築くことのできる力を身に付けている。
- ※3 授業形態について「単体」「複数」「オムニバス」のいずれかで記載されています。
- ※4 当該科目が教員免許養成課程告示科目のどの区分に当たるか記載されています。
- ※5 当該科目が保育士養成課程告示科目のどの区分に当たるか記載されています。

教育課程＜学びと育ち＞（1年生）

千葉明德短期大学の教育課程においては、学生のみなさんの確かな＜学びと育ち＞につながるように、各授業科目が連動しあう学びの蓄積が用意されています。1年生では、図に示すようなねらいをもつ教科目を総合的に体験することを通して、基礎知識や技能を段階的に学び、確実なものとして修得していくこととなります。

1年前期（4月～9月）

1年後期（10月～3月）

☆ A教養基礎科目 ①基礎科目系



社会に生きる一人の人間としての土台を養い、学ぶための基礎的な力を身につける。

☆ A教養基礎科目 ②基礎総合科目系



保育者になる将来の自分像を見出し、目指す姿に向けて取り組むための基礎的な力を身につける。社会に生きる一人の人間として、人と関わり、学び、共に育つための態度や行動を体験を通して学ぶ。

☆ B専門科目 ①教育・保育/理論系



身近にある様々な教育の問題に興味をもち、自分なりの見解をもつことができる。子どもの健康や成長、発達に関する基本的知識と実践技能の基礎を身につけると共に、保育の計画についても理解する。

☆ B専門科目 ②教育・保育/実践系



実際の子どもの姿や具体的な子どもとのかかわり、保育者の役割等を体験し知る中で、直接的、間接的な体験を教材としながら、子どもの姿やそこでのかかわりの意味を考え理解し、保育者の援助を知っていく。

☆ B専門科目 ③教育・保育/実習系



幼稚園、保育所、施設において、子どもや利用者がどのような生活をし、どのように人と関わり、どう成長を遂げるのかを理解する。実習生の基本的立ち振る舞いを身につけ、子ども理解や保育士の職務を深く考える。

☆ B専門科目 ④表現技術系



音楽・身体・造形・言語による総合的表現を体験すると共に、幼児の遊びとその他の活動を支える表現の基礎知識、保育の中で活用するための工夫、柔軟な発想力を学ぶ。表現に対して開かれた態度を持つ。

☆ B専門科目 ⑤福祉系



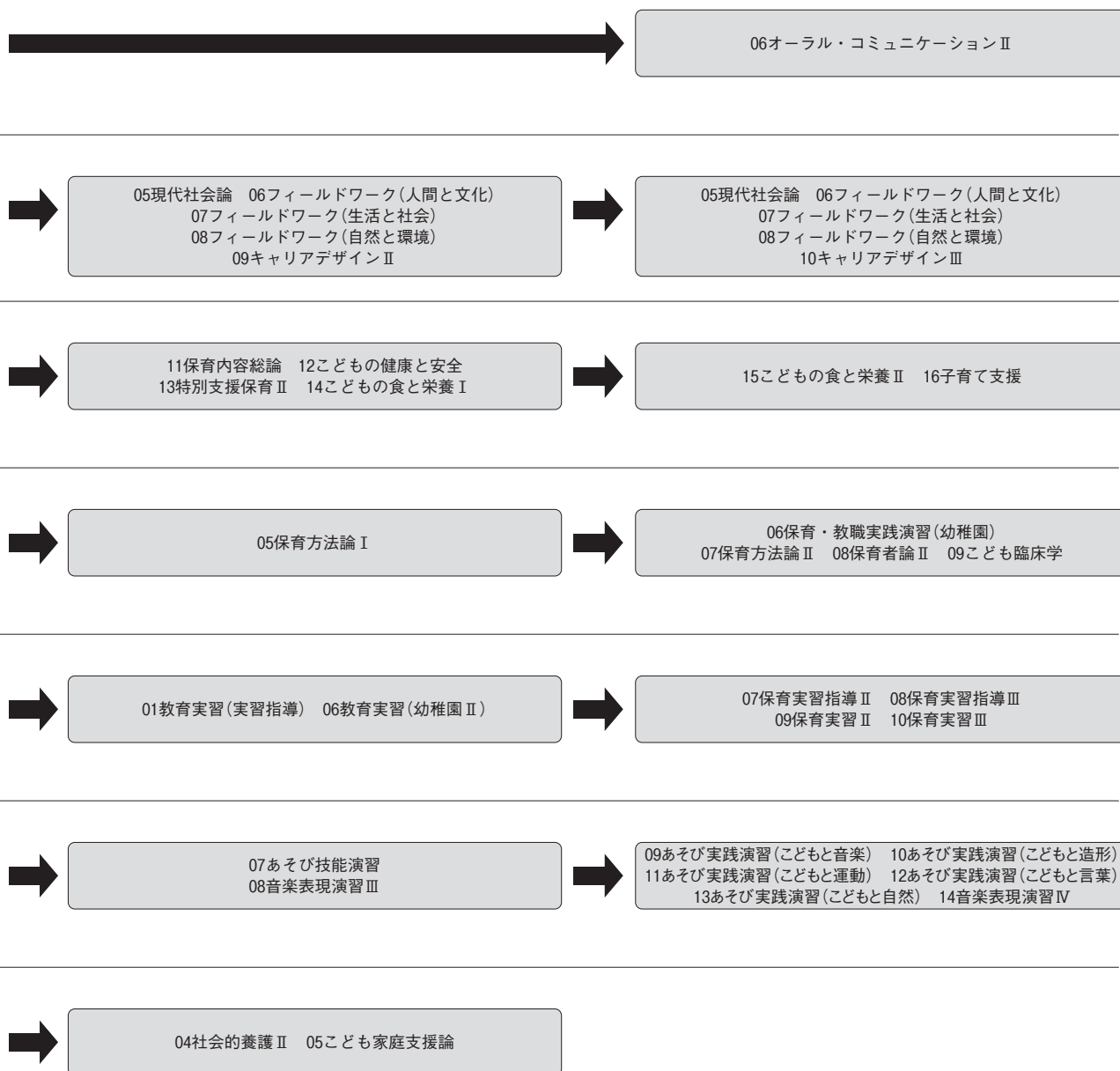
現代社会における社会福祉のあり方や現状、人権問題の視点を学ぶ。児童家庭福祉、社会的養護、様々な障害の理解、家庭の養育の支援などと保育の関連性を知り、福祉現場でどう生き、どう働くかを考える。

教育課程〈学びと育ち〉（2年生）

2年生では、学生のみなさんが自らの課題を見つめ、より学びを深めていくための取り組みを選択することとなります。1年生からの学びの連続性を維持し展開していきます。さらに、2年間で体験した各実習を教員と共に丁寧に振り返っていくことで、一人ひとりの体験が自らの〈学びと育ち〉の獲得となるよう全学的に取り組めます。

2年前期（4月～9月）

2年後期（10月～3月）



☆ B専門科目 ⑥専門総合科目系



保育者になる将来の自分像を明確化し、目指す姿の実現に向けて具体的な方法を考察する。